

県土木部等 建設技術者研修会

積算基準改定等を解説



積算基準改訂など学んだ研修会
＝名瀬市の奄美建設会館で

をいかに推進していくかが課題。限られた予算の中で効率的に進めていきたい」と話し、21世紀の公共工事のキーワードとして①環境②安全③安心の3点を挙げた。

後からは15年度土木工事積算基準の改定と土木工事共通仕様書改訂について大島支庁や県土木部の担当者が詳しく説明した。夕方までの長丁場となったが出席者は新しい改訂内容などの講義のメモを取るなど真剣に取り組んでいた。



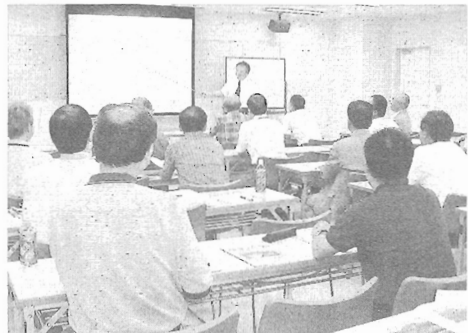
図書券を手渡す橋元専務(左端)と久藤部長(右から2人目)＝阿久根市教育委員会

マルトミ工業(株) 三丸社長、本社・鹿児島市は14日、阿久根市教育委員会に図書券を贈呈した。今回の贈呈は平成10年から今年度まで10年間にわたる協力と理解のもと無事完成を迎えることから感謝の気持ちを込めて贈呈した。同社は、6年ほど前に小・中学校に落石があり危険であることなどを知らせた。工事を進め、おはよう

阿久根市教委に図書券贈呈

工事協力に感謝込めて

マルトミ工業(株) 三丸社長、本社・鹿児島市は14日、阿久根市教育委員会に図書券を贈呈した。今回の贈呈は平成10年から今年度まで10年間にわたる協力と理解のもと無事完成を迎えることから感謝の気持ちを込めて贈呈した。同社は、6年ほど前に小・中学校に落石があり危険であることなどを知らせた。工事を進め、おはよう



桜島地区治山事業のテーマで開かれた研修会
＝鹿児島市の市勤労者交流センターで

県技術士会(稲田博会長)の7月度CPD研修会が12日、鹿児島市の市勤労者交流センターであり、会員技術士30人が出席、約2時間の講義を聴講した。桜島地区の防災について、

桜島治山で現況報告

かこしまウォーターフロントフェスティバル実行委員会(玉川浩一郎会長)は13日、鹿児島市のかこしま水族館イルカ水路などウォーターフロントパーク周辺海域の水中清掃を鹿児島海上保安部と一般市民が参加して行った。今回で3回目となる水中清掃は、鹿児島海上保安部やかこしま水族館の職員、一般市民、ダイビングショップのインストラクターら約20人が参加した。この日は、陸上では作業確認や注意事項の後、酸素ボンベを背負ったダイバーが海中に潜り、心もとない人が投げ捨てた自転車6台や廃棄タイヤ、布団などが引き上げられたほか、陸上ではペットボトルや空き缶、ごみなどが拾い集められ、作業終了時には2メートルの荷台一杯になった。下田副部長は「第16回かこしまウォーターフロントフェスティバル2003が21、21日に行われます。より多くの方々に気持ちよく参加頂き、海に親しんでもらえたら大変うれしいです」と語った。

公園周辺海域を清掃

かこしまWFF実行委



水中清掃に励む有志のダイバーたち＝鹿児島市のウォーターフロントパーク周辺海域で

NPOインフラネット

旧道敷再開放で意見交換



旧道の現況を踏まえて再利用の可能性について話し合う＝鹿児島市の市勤労者交流センターで

は3日、鹿児島市勤労者交流センターで道路旧道敷再利用の検討会を開き、5月に現地見学した一般国道328号線のほか、県道20号鹿児島加世田線、国道255号線、県道55号線野加治木線の旧道敷の現況報告を踏まえて、ごみの不法投棄防止のため封鎖されている旧道敷の再開放の可能性について意見交換をした。出席者から、「旧道敷の名称について、県民や利用者に親しまれる名前に変えるべきではないか」といった提案や、「不法投棄の現状を踏まえて再利用の可能性について話し合う」などの意見が出された。同会では、これらの意見をとりまとめ、道路管理者に相談し、了解が得られれば「個所を遊歩道に小規模な、道の駅」を計画し、管理・運営をNPOや地域の民間団体に委託して「地域のNPOなどと連携した美化作戦を実施する」などの意見が出された。同会では、これらの意見をとりまとめ、道路管理者に相談し、了解が得られれば「個所を遊歩道に小規模な、道の駅」を計画し、管理・運営をNPOや地域の民間団体に委託して「地域のNPOなどと連携した美化作戦を実施する」などの意見が出された。

社長に新名氏

ハザマの会社分割計画が、このほど株主総会で正式に承認された。10月1日を境に、建設事業部門の新会社「新ハザマ」と、不動産事業会社「旧ハザマ」に分割する。また、株主総会後の取締役会で経営体制を一転、新社長に新名順一(前副社長、新副社長に、友野希成前土木事業本部長、穴戸道夫前顧問、芳野栄文前顧問がそれぞれ就任した。このうち芳野氏は、5月に業務提携契約を締結した安藤建設からの派遣。

お手軽で便利な
読料のお支払い
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100